

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 埼玉医科大学
理事長 丸木 清

埼玉医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 23 年度の業務
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照 (様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照 (様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	74.5人
--------	-------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法
→ 別紙参照 (様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績
→ 別紙参照 (様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数	
医 師	357人	156人	388.0人	看護補助者	79人	診療エックス線技師	0人	
歯科医師	9人	12人	10.6人	理学療法士	22人	臨床検査 技師	75人	
薬 剤 師	71人	0人	71.0人	作業療法士	13人		衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	8人		そ の 他	0人
助 産 師	27人	1人	27.9人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人	
看 護 師	770人	21人	786.7人	臨床工学技士	26人	医療社会事業従事者	15人	
准看護師	39人	7人	43.9人	栄 養 士	19人	そ の 他 の 技 術 員	17人	
歯科衛生士	1人	0人	1.0人	歯科技工士	3人	事 務 職 員	127人	
管理栄養士	28人	0人	28.0人	診療放射線技師	51人	そ の 他 の 職 員	98人	

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	694.7 人	6.1 人	700.8 人
1日当たり平均外来患者数	1548.3 人	39.8 人	1588.1 人
1日当たり平均調剤数	外来 546.9 剤 入院 698.2 剤	合計 1,245.1 剤	

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法	9人
実物大臓器立体モデルによる手術支援	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注1) 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注2) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.1

医療技術名	多発性骨髄腫に対するプロテアソーム阻害薬による治療	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 多発性骨髄腫（初発及び再発）に対して、プロテアソーム阻害薬であるボルテゾミブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、寛解が得られた症例については、分子生物学的手法により微小残存細胞についての評価を行う。			
医療技術名	多発性骨髄腫に対する免疫調整薬による治療	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 再発・難治性の多発性骨髄腫に対して、免疫調整薬であるサリドマイドあるいはレナリドミドを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。また、造血幹細胞移植併用大量化学療法後の症例にも、維持療法として用い、その有用性を検証する。			
医療技術名	骨髄異形成症候群に対してのアザシチジン治	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 高リスクあるいは輸血依存性の骨髄異形成症候群に対して、メチル化阻害薬であるアザシチジンによる治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	低悪性度リンパ腫に対するベンダムスチン治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 再発・難治性の低悪性度リンパ腫に対して、新規抗腫瘍薬であるベンダムスチンによる治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	特発性血小板減少性紫斑病に対してのトロンボポエチン受容体作動薬を用いた治療	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 難治性の特発性血小板減少性紫斑病に対して、トロンボポエチン受容体作動薬であるエルトロンボパグあるいはロミプラスチムを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	発作性夜間ヘモグロビン尿症に対するエクリズマブ療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 発作性夜間ヘモグロビン尿症に対して、補体活性化経路のC5に作用するヒト化C3ブロックングモノクローナル抗体であるエクリズマブを用いた治療を行い、有効性・安全性を検討する。			
医療技術名	免疫性神経疾患のリンパ球サブセット・サイトカインからみた診断	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 非ヘルペス性辺縁系脳炎を中心として脳炎・脳症の発症、進展にかかわる免疫機序の関与について、末梢血リンパ球サブセットならびに髄液サイトカインを検討し診断、治療に役立てている。			
医療技術名	発汗障害患者に対する軸索反射性発汗機能の検討	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 各種発汗障害患者に対し、軸索反射性発汗試験を行い発汗系交感神経節後機能を検討し診断、治療に役立てている。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.2

医療技術名	各種自律神経疾患における血圧・心拍の周波数解析	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者の血圧・心拍数を連続記録し、血圧・心拍の周波数解析を行っている。これらの結果から、交感・副交感神経機能を検討し、病態把握に役立てている			
医療技術名	各種自律神経疾患における交感神経性皮膚反応検査	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 各種自律神経疾患患者に本試験を実施することにより精神性発汗を検討している。この検査によって発汗の反応経路（中枢神経～末梢神経～汗腺）における障害の有無を明らかにし、診断、治療に役立てている。			
医療技術名	総胆管結石および胆管内腫瘍における術中胆管内内視鏡超音波検査	取扱患者数	72人
当該医療技術の概要 総胆管結石の遺残の有無や胆管内腫瘍の局在や浸潤の程度などを手術中に検査でき、通常の超音波検査に比べ有用性が高い。			
医療技術名	新たな電気メス（エンドカット）を用いた乳頭括約筋切除術	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 従来の乳頭括約筋切開法に比べ、凝固と切開が自動的に制御され、安全に出血が少なく切開できる。			
医療技術名	ハーモニックスカルペルを用いた痔核切除術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 従来の電気メス、ハサミを用いた痔核切除術に比べ、出血量が少なく手術時間も短縮でき、術後疼痛が軽減する。			
医療技術名	ミトコンドリア病（ミトコンドリア呼吸鎖異常症）の酵素診断	取扱患者数	250人
当該医療技術の概要 ミトコンドリア呼吸鎖異常症は、いかなる症状、いかなる臓器・組織、何歳でも、そしていかなる遺伝形式でも発病し、出生 5,000 人に 1 人とされる最も高頻度の先天代謝異常症である。私たちは細胞、臓器、組織を用いた呼吸鎖酵素解析法を開発し、日本で唯一ミトコンドリア呼吸鎖異常症を正確、迅速に診断できることを可能にした。			
医療技術名	高頻度振動換気療法（HFV）	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 新生児における呼吸窮迫症候群などの重症呼吸障害の際に使用し、自発呼吸に依存せず高頻度振動を用いて換気を行う結果、新生児の未熟な肺の損傷を軽減し換気を行うことができる人工換気法である。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.3

医療技術名	脳低温療法	取扱患者数	12 人
当該医療技術の概要 新生児仮死で出生した児の脳に対するダメージを最小限に止めるため、出生時より脳を低温に保つ治療法（34℃、72 時間）。			
医療技術名	アフエレーシス	取扱患者数	70 人
当該医療技術の概要 自己抗体に関連した血管炎に対する抗体除去療法としての全血漿交換、敗血症症例に対するエンドトキシン吸着、劇症肝炎に対する人工肝臓としての血漿交換・持続血液濾過透析、インターフェロン療法抵抗性、高ウイルス血症に対する DFPP、自己免疫性神経疾患に対する免疫グロブリン吸着療法など、あらゆる血液浄化法を提供している。			
医療技術名	持続血液濾過透析（小児を含む）	取扱患者数	100 人
当該医療技術の概要 血行動態の不安定な重症症例に対する持続血液濾過透析療法に関して、24 時間対応可能な体制を維持している。専用の集中治療室（renal intensive care unit）を備え、透析の専門知識を有する医師・看護師・臨床検査技師が常駐している。1 歳未満の小児に対して、腹膜透析が困難な場合、小児科・小児外科と連携し、持続血液濾過透析を施行している。			
医療技術名	関節リウマチならびに自己免疫疾患に対する生物学的製剤投与	取扱患者数	200 人
当該医療技術の概要 多剤抵抗性の関節リウマチや難治性の自己免疫疾患に対して、TNF α 、IL6 や CD28 (Tcell) の阻害療法が有用であることが知られている。当科でもこれら生物学的製剤を投与することにより、従来の治療法では困難だった関節リウマチ患者の関節破壊の抑制や患者 QOL の改善、自己免疫疾患の炎症反応の抑制が可能となった。今後製剤の追加や適応拡大が期待されており、一層有効な治療法になると考えられる。			
医療技術名	体外受精	取扱患者数	22 人
当該医療技術の概要 原則として、体外受精・胚移植法は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療である。具体的には、 ・一般的な不妊治療であるタイミング法、排卵誘発法、人工授精等を十分行ったが妊娠できなかった夫婦。 ・精子濃度が低い、精子運動性が不良など、男性因子がある場合。 ・両側卵管切除後の場合や、子宮卵管造影検査／腹腔鏡検査により両側卵管の閉塞や癒着による機能障害が確認された場合。 ・抗精子抗体が陽性で、人工授精では妊娠できない場合。 などが適応となる。 体外受精・胚移植法は、卵巣で発育した卵子を体外に取り出し（採卵）、精子と受精させ（媒精）、数日間体外で育て（培養）、得られた受精卵（胚）を子宮内に戻す（胚移植）方法により、妊娠成立を目的とする不妊治療である。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.4

医療技術名	顕微授精	取扱患者数	14 人
当該医療技術の概要 原則として、顕微授精は、これ以外の医療行為によっては妊娠成立のみこみがないと判断される場合に行われる治療です。具体的には、 <ul style="list-style-type: none">・体外受精を十分行ったが受精卵が得られなかったり、良好胚が得られなかった場合・精子濃度が極めて低い、精子運動性が極めて不良など、高度男性因子がある場合・精巣内精子、精巣上体精子を用いる場合・精子-透明帯/卵細胞膜貫通障害・抗精子抗体陽性の場合 などが適応となる。 採卵した卵を前処理した後、顕微鏡下で保持する。この卵に同じく前処理した精子を細いガラス管で注入する。この方法により受精能力の低い精子でも受精させることができるようになってくる。精液中に精子が全く見つからない場合には、精巣から組織を採取してその中から精子を回収し、顕微授精を行う方法 (TESE) もある。 採卵数が多く、精子の受精能力がやや低いことが考えられる場合に、採卵した卵を 2 組に分けて半分を通常の受精方法、半分を顕微授精にすることがある。			
医療技術名	性器脱に関するメッシュ手術	取扱患者数	53 人
当該医療技術の概要 TVM 手術 (Tension-free Vaginal Mesh 手術) は、膣の壁の下に、ポリプロピレンメッシュのシートを挿入し、そこから足の付け根や殿部 (おしり) の小さな傷 (各 5mm 程度、膣の前壁だけなら 4 か所、後壁もする時は合計 6-8 か所) にメッシュの腕 (メッシュの端からのびた巾 2cm の紐状の部分) を通して、骨盤底の支持組織を強化する術式。原則として子宮はとらない。手術負担が小さいこと (入院期間が短く、傷の痛みが少ない)、再発が少ない (6%) ことから、欧米で普及しつつあり、日本でも導入する施設が増えてきた。			
医療技術名	骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折に対する経皮的人工骨注入法	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 陳旧性の骨粗鬆症性圧迫骨折に対しては、内固定金属を用いた侵襲の大きな手術が必要であるが、低侵襲な手技で早期社会復帰を目指している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.5

医療技術名	音響鼻腔計測法	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 音響を利用した短時間に非侵襲的に鼻腔断面積を測定できる。抗アレルギー薬など鼻閉に対する薬効の客観的評価、手術前後の鼻腔開大効果の客観的評価などに用いている。			
医療技術名	音刺激による前庭誘発頸筋電位検査 (vestibular evoked myogenic potentials:VEMP)	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 VEMP 検査は前庭脊髄反射に対する検査法のひとつである。クリックあるいはトーンバースト音刺激を用い、胸鎖乳突筋に現れる筋電位の変化を記録する方法である。この刺激の伝達には、球形嚢から下前庭神経、さらに前庭神経核を経由して前庭脊髄路を下行し、頸筋に達する経路が推定されている。内耳機能の評価、前庭神経障害の評価、さらに下部脳幹障害の評価法となり得る可能性がある。			
医療技術名	良性発作性頭位めまい症に対する理学療法	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 良性発作性頭位めまい症の病態に関しては、クプラへの耳石片の付着(クプラ結石症)、あるいは三半規管内の浮遊耳石(半規管結石症)が提唱されている。これらの諸説を念頭に置き、難治性の良性発作性頭位めまい症に対して、particle repositioning maneuver(Parnes法、Epley法)やliberatory maneuver (Brandt法、Semont法)などの理学療法を試みている。			
医療技術名	Qスイッチルビーレーザーを用いた皮膚色素性病変の治療、 ならびに色素レーザーを用いた単純性血管腫の治療	取扱患者数	395人
当該医療技術の概要 Qスイッチルビーレーザーはメラニンをターゲットとし、太田母斑や他の真皮メラノサイトーシスなどの治療として有効である。色素レーザーは赤血球をターゲットに血管内皮に損傷を与える治療で、単純性血管腫やほかの毛細血管拡張に対し有効である。おのおの第1選択として行っている。			
医療技術名	天疱瘡に対する大量免疫グロブリン療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 通常の治療に抵抗性の難治性症例に対し、有効である。原因となるデスモゾームに対する抗体の産生抑制、異化亢進が作用機序として考えられている。			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.6

医療技術名	皮膚悪性腫瘍に対するドップラー超音波診断	取扱患者数	90人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍では、悪性黒色腫やエクリン汗孔腫、その他いくつかの腫瘍での血管新生の特徴が明らかになりつつあり、多種にわたる皮膚腫瘍の無侵襲の検査として、鑑別診断のうえで、極めて有効である。			
医療技術名	尋常性白斑、尋常性乾癬、菌状息肉症に対する narrow band UVB 治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 narrow band UVB の有用性が知られており、尋常性白斑、尋常性乾癬、および菌状息肉症に対し行っている。			
医療技術名	FOP 遺伝子解析	取扱患者数	19人
当該医療技術の概要 FOP は、2007 年 3 月に厚生労働省特定疾患対策懇談会において難病の 1 つとして認定された疾患で、筋組織が骨化する疾患として知られる進行性骨化性線維異形成症 (Fibrodysplasia Ossificans Progressiva, FOP) である。 小児期に腫瘍が形成されたために癌と診断されたケースが 30%程度あることが判明しており、このような背景には、FOP の迅速で正確な診断法が確立されていなかったことが挙げられる。しかし、2006 年、FOP 患者に ACVR1/ALK2 遺伝子の中に共通する変異を持つことが報告された。遺伝子診断は、FOP の異所性骨化の発症前でも可能である上、迅速・正確な検査である。 発症機序の解明および治療法の確立を目指す上では欠かせない検査である。			
医療技術名	レーベル病遺伝子解析	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 レーベル病の検査は、蛍光眼底造影、視力検査、視野検査、画像検査、電気生理学的検査、心電図検査、遺伝子検査が行われる。 レーベル病の急性期では、通常両目に異常が認められ、視神経乳頭は発赤、腫張し、血管は著しく拡張している。 委縮期では、視神経乳頭の耳側の蒼白化が進行し、血管の拡張はみられなくなる。 視神経乳頭の変異、比較的急激な視力低下と遺伝子解析による特異的なミトコンドリア DNA の変異を検査することによりレーベル病と診断する。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

No.7

医療技術名	抗TNF- α 製剤に抵抗性の炎症性腸疾患症例におけるメシル酸ガベキサート併用投与の有効性	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 抗TNF- α 製剤は炎症性腸疾患に対する治療薬で血中TNF- α の中和作用、また単球の膜結合型TNF- α に結合してアポトーシスを誘導し、炎症反応を軽減する。しかし、反復投与により効果の減弱が指摘されている。メシル酸ガベキサートは膵炎や播種性血管内凝固異常の治療に使用される蛋白分解酵素阻害剤であるが、単球から多種のサイトカインが分泌される過程を抑制する。そこで、メシル酸ガベキサートを抗TNF- α 製剤に先行して投与し、単球の膜結合型TNF- α の発現を増強し、アポトーシスを効果的に誘発し、抗TNF- α 製剤の治療効果の減退を改善し、治療効果を高めると考えている。IRBの許可を得て実施している。			
医療技術名	医療用アロンアルファを用いた胃静脈瘤の治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 胃穹窿部静脈瘤出血は止血困難例が多く、より簡便に行える方法として、医療用アロンアルファの注入による硬化療法を行っている。IRBの許可を得ており、緊急時に行える体制となっている。			
医療技術名	肝性脳症に対するB-RT0を用いた治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 門脈圧亢進症状に伴う異常血行路による頻回な脳症の発症を予防するため、血行改変を目的に、B-RT0バルーン下逆行性経静脈的塞栓術を行う。IRBの許可を得て行っている。			
医療技術名	シスプラチン製剤（ミリプラチン [®] ）とTACE肝動脈化学塞栓療法の併用による肝細胞癌の治療	取扱患者数	254人
当該医療技術の概要 シスプラチンの粉末製剤とリピオドールの懸濁液を化学塞栓療法として肝癌治療に用いた場合、局所停滞率が高く、腎機能の悪い症例にも適応可能となり利点が高い事が知られている。更に、塞栓物質の注入を併用する事で腫瘍を阻血壊死させる率が高くなると考えられ、IRBの許可を得て行っている。			
医療技術名	重症型アルコール性肝炎に対する白血球（顆粒球）除去療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 重症型アルコール性肝炎では、感染及び腎機能のコントロールが最も重要であり、生命予後に関与する。抗生剤投与、ベネノグロブリン製剤投与等でも感染コントロールがつかない時には、炎症を惹起するサイトカイン等の物質を取り除く白血球（顆粒球）除去療法が有効と考えられ、IRBの許可を得て実施している。			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第 10)

高度の医療の提供の実績

高度の医療の提供の実績

No.8

医療技術名	C型慢性肝炎の宿主側因子の検討—IL28等	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要 C型慢性肝炎の治療効果を規定する宿主側の因子としてIL28等の様々な要因がいられている。倫理委員会を通し、C型慢性肝炎患者様の血液から採取した各要因を分析する事でIFN治療の効果判定、製剤の選択等に生かせると考えている。			
医療技術名	脳波定量分析およびマッピング	取扱患者数	403人
当該医療技術の概要 脳波検査時に通常の計測、記録だけでなく、同時に脳波定量分析を行い、周波数帯域別に頭皮上分布の表示(マッピング)をする。これによって脳波の周波数帯域ごとの空間的変化を経時的に比較・検討することができ、薬剤性の脳機能異常や脳器質性疾患の検出、意識障害(せん妄等)の回復度判定などの臨床的判断を定量的な神経生理学的根拠に基づいて行うことができる。システムの保守・運営は臨床神経生理学会認定医・認定技師により行われている。〔施行件数〕			
医療技術名	修正型電気通電療法	取扱患者数	76人
当該医療技術の概要 静脈麻酔下で筋弛緩を十分に得た状態で頭部電気通電を行う、修正型電気通電療法(modified electro-convulsive therapy(mECT))を、麻酔科の協力のもと手術室において行っている。薬物療法に治療抵抗性の精神障害(うつ病等の感情障害や統合失調症等)に対する有効性が多く報告されている治療法であるが、埼玉県西部における施行施設は当院だけであり、他施設では対応困難な難治性精神障害治療に関し、県内でその一翼を担っている。〔施行回数〕			
医療技術名	児童・思春期専門カウンセリング・療育訓練	取扱患者数	2,027人
当該医療技術の概要 広汎性発達障害等の児童・思春期に対し、児童・思春期専門医による診療を中心に、臨床心理士によるカウンセリングや言語聴覚士による療育訓練を組み合わせ、専門的な診療を展開している。他施設では対応困難な児童・思春期診療に関し、法人内「かわごえこどものこころクリニック」と連携し、県西部において重要な役割を果たしている。〔カウンセリング件数1,008回、療育訓練件数1,019回〕			

(注)当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾 患 名	取扱患者数	疾 患 名	取扱患者数
・ベーチェット病	109人	・膿疱性乾癬	11人
・多発性硬化症	104人	・広範脊柱管狭窄症	23人
・重症筋無力症	151人	・原発性胆汁性肝硬変	1,079人
・全身性エリテマトーデス	2,321人	・重症急性膵炎	23人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	44人
・再生不良性貧血	14人	・混合性結合組織病	447人
・サルコイドーシス	229人	・原発性免疫不全症候群	10人
・筋萎縮性側索硬化症	27人	・特発性間質性肺炎	63人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	1,107人	・網膜色素変性症	55人
・特発性血小板減少性紫斑病	154人	・プリオン病	8人
・結節性動脈周囲炎	7人	・肺動脈性肺高血圧症	16人
・潰瘍性大腸炎	396人	・神経線維腫症	152人
・大動脈炎症候群	35人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	17人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	3人
・天疱瘡	22人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	9人
・脊髄小脳変性症	61人	・ライゾゾーム病	5人
・クローン病	124人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	10人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	47人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	964人	・球脊髄性筋萎縮症	5人
・アミロイドーシス	50人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	35人
・後縦靭帯骨化症	34人	・肥大型心筋症	27人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	22人	・ミトコンドリア病	8人
・ウェゲナー肉芽腫症	494人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	26人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	35人	・黄色靭帯骨化症	10人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	830人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・胎児心超音波検査	・
・超音波骨折治療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	大学全体として年間6回(2ヶ月に1回) 各科毎として週1回程度(年間約50回)
剖検の状況	剖検症例数 27例 / 剖検率 6.9%

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.1

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	別所 正美	血液内科	300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	18,841 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
難治性の肝・胆道疾患に関する調査研究	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	3,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
B型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を用い、新規診断法及び治療法の開発を行う研究	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
肝疾患の病態における性差：オステオポンチン転写に関わる女性固有転写因子の同定	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科	1,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
経口感染する肝炎ウイルス(A型、E型)の感染防止、遺伝的多様性、および治療に関する研究	中山 伸朗	消化器内科 ・肝臓内科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
次世代シーケンスを用いた日本人1型糖尿病における新規感受性SNPの同定	粟田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科	2,800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
日本人2型糖尿病患者における生活習慣介入の長期予後効果並びに死亡率とその危険因子に関する前向き研究(JDCS)	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科	600 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注)1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.2

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
視床下部S 6 キナーゼの糖尿病における役割	小野 啓	内分泌内科 ・糖尿病内科	1,200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
加圧空気負荷での脂質代謝改善機構解明によるメタボリック症候群新規治療法の探索	保坂 利男	内分泌内科 ・糖尿病内科	500 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
漢方方剤「抑肝散」によるアルツハイマー病B P S D軽減効果の検証-プラセボ対照無作為化臨床第2相比較試験-	荒木 信夫	神経内科	600 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
特発性後天性全身性無汗症の病態解析及び治療指針の確立	中里 良彦	神経内科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
血栓の管腔内成長に対する細胞間相互作用とニューロキニン1受容体の役割の検討	東 俊晴	麻酔科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
単球リアノジン1受容体刺激が誘導する細胞死を指標とした悪性高熱症診断法の開発	塚本 真規	麻酔科	500 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
ニューロキニン1受容体刺激によるマイクロパーティクル放出の血液凝固に対する影響	星島 宏	麻酔科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
高アスペクト比X線格子を用いた位相型高感度X線医用診断機器の開発	田中 淳司	放射線科	1,300 千円	補 独立行政法人 科学技術振興 機構 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.3

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
位相型高感度X線医用診断機器の実用化開発	田中 淳司	放射線科	91 千円	補 独立行政法人 科学技術振興 機構 ⑤委
標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第Ⅲ相臨床研究	藤巻 高光	脳神経外科	1,000 千円	⑤補 厚生労働省 科学研究費 委
経頭蓋磁気刺激による皮質拡張性抑制の誘導と非侵襲的な脳虚血耐性の獲得	小林 正人	脳神経外科	2,300 千円	⑤補 文部科学省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	鈴木 洋通	腎臓内科	300 千円	⑤補 厚生労働省 科学研究費 委
慢性腎臓病を対象とした機能的MRI法の開発	井上 勉	腎臓内科	1,300 千円	⑤補 文部科学省 科学研究費 委
Wolfram症候群の実態調査に基づく早期診断法の確立と診療方針作成のための研究	雨宮 伸	小児科	500 千円	⑤補 厚生労働省 科学研究費 委
治験の実施に関する研究[L-アルギニン]	大竹 明	小児科	1,000 千円	⑤補 厚生労働省 科学研究費 委
日本人長鎖脂肪酸代謝異常症の診断方法の確立、及び治療方法の開発に関する研究	大竹 明	小児科	13,000 千円	⑤補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.4

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ミトコンドリア病の診断と治療に関する調査研究	大竹 明	小児科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
重症・難治性急性脳症の病因解明と診療確立に向けた研究	山内 秀雄	小児科	300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
臨床的に寛解状態にあるも末梢気道閉塞が残存する思春期喘息児に対する治療・管理戦略	徳山 研一	小児科	2,600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
自己免疫疾患に関する調査研究	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	1,200 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
免疫抑制薬、抗悪性腫瘍薬によるB型肝炎ウイルス再活性化の実態解明と対策法の確立	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
関節リウマチ滑膜線維芽細胞におけるヒストン修飾とDNAメチル化の解析	三村 俊英	リウマチ 膠原病科	700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
CD8陽性T細胞におけるヒストン修飾による機能及び分化制御の解明	荒木 靖人	リウマチ 膠原病科	2,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
ヘルパーT細胞分化と機能発現において転写因子特にc-Mafが果たす役割の解析	佐藤 浩二郎	リウマチ 膠原病科	2,200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.5

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
バイオマーカーに基づいた肺癌個別化治療における分子標的治療薬の至適治療法を検証するランダム化第Ⅲ相比較試験	萩原 弘一	呼吸器内科	2,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
特発性肺線維症急性増悪及び薬剤性肺障害に關与する日本人特異的遺伝素因に関する研究	萩原 弘一	呼吸器内科	33,750 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
薬剤性肺障害・特発性肺線維症急性増悪の遺伝学的研究	萩原 弘一	呼吸器内科	4,100 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
分子標的薬暴露癌細胞の中長期生存分子機構の解明と新規癌関連遺伝子同定への応用	萩原 弘一	呼吸器内科	1,300 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
「特発性肺線維症急性増悪および薬剤性肺障害に關与する日本人特異的遺伝素因に関する研究」におけるヒト全ゲノムSNP解析	萩原 弘一	呼吸器内科	4,000 千円	補 日本予防医学 協会 委
遺伝子多型と喫煙	萩原 弘一	呼吸器内科	3,000 千円	補 喫煙科学財団 委
チロシンキナーゼ阻害剤による有効ながん治療の実用化に関する研究	萩原 弘一	呼吸器内科	1,000 千円	補 科学技術振興 機構 委
難治性喘息におけるヘルパーT17型免疫応答の意義に関する研究	中込 一之	呼吸器内科	900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.6

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
PAR-2 制御による IPF 急性増悪新規治療法の探究	鈴木 朋子	呼吸器内科	2,600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
ヒト細胞標準化 Real-time PCR 法での肺炎起炎菌診断と網羅的病態解析	平間 崇	呼吸器内科	1,900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
血管形成異常における全エクソンリシークエンシングによる疾患責任遺伝子の同定	田中 知明	呼吸器内科	2,400 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
国内におけるヒト正常細胞分譲システム網の確立	石原 理	産婦人科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
術中大量出血時の凝固障害機序の解明と止血のための輸血療法の確立-手術中の大量出血をいかにして防ぐか-	板倉 敦夫	産婦人科	700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
着床不全に対する新規治療法の開発とその臨床応用	梶原 健	産婦人科	1,300 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
癌細胞傷害活性と免疫賦活効果を示す NK T 細胞を応用した新規・卵巣癌免疫療法の開発	鈴木 元晴	産婦人科	1,700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 7

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.7

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
腰痛の診断、治療に関する研究「腰部脊柱管狭窄症の診断・治療法の開発」	高橋 啓介	整形外科 ・脊椎外科	800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
骨粗鬆症の尿スクリーニング検査の費用対効果に関する研究	田中 伸哉	整形外科 ・脊椎外科	700 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
糖尿病性・虚血性潰瘍における治癒能力診断デバイスの開発	市岡 滋	形成外科 ・美容外科	1,200 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
スフィンゴシンーリン酸を用いた骨培養効率化	佐藤 智也	形成外科 ・美容外科	1,000 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
脳梗塞発症後に発見された耐糖能異常の臨床的意義に関する検討	間嶋 満	リハビリテーション科	800 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
メタボリック症候群と脳梗塞における運動療法の抗血栓作用と動脈硬化抑制効果の解析	倉林 均	リハビリテーション科	2,500 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
新規診断マーカーCTPを用いた難治性内耳疾患の多施設検討	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	13,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
Usher 症候群に関する調査研究	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.8

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
優性遺伝形式をとる遺伝性難聴に関する調査研究	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
前庭機能異常に関する調査研究	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	1,300 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
内耳疾患診断のバイオマーカーCTP - 迅速検出法の開発と臨床応用-	池園 哲郎	耳鼻咽喉科	900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
新しい外リンパ嚢診断マーカーCTPの時 空間的発現の検討	新藤 晋	耳鼻咽喉科	900 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
フォン・ヒッペルリンドウ病の病態調査と 診断治療系確立の研究	米谷 新	眼科	500 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
加齢黄斑変性に対する個別化医療実現のため の前向き研究に基づくゲノムワイド関連 解析	米谷 新	眼科	1,800 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
35型アデノウイルスベクターによる遺伝 子治療の開発とその遺伝子発現制御	森 圭介	眼科	700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
神経皮膚症候群に関する調査研究	倉持 朗	皮膚科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.9

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
アトピー性皮膚炎のかゆみの解明と治療の標準化に関する研究	中村 晃一郎	皮膚科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
ベーチェット病に関する調査研究	中村 晃一郎	皮膚科	1,000 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
HUMARA assayおよび免疫染色を用いた咀嚼筋腱膜過形成症の病態解明	依田 哲也	歯科・口腔外科	600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
慢性再発性アフタの遺伝要因を決定するHLAアレルの連鎖解析	坂田 康彰	歯科・口腔外科	300 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
メラノコルチン受容体作動薬の骨代謝における作用の解析と顎骨壊死に対する臨床応用	佐藤 毅	歯科・口腔外科	2,500 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
T細胞介在性口腔炎症性疾患におけるTh17細胞及びコリン性抗炎症機構の関与の検討	中本 紀道	歯科・口腔外科	700 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
Calciphylaxis の診断・治療に関わる調査・研究	中元 秀友	総合診療内科	200 千円	補 厚生労働省 科学研究費 委
組織特異的NFκB抑制による腎老化予防効果の検討	岡田 浩一	総合診療内科	600 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 8

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

No.10

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脳腫瘍の診断と治療に有効なミクログリア /マクロファージのサブタイプの同定	佐々木 惇	病理学	1,040 千円	補 文部科学省 科学研究費 委
悪性神経膠腫における腫瘍前駆細胞とその ニッチの同定	佐々木 惇	病理学	260 千円	補 文部科学省 科学研究費 委

計 2
合計 73

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

No. 1

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
薬理と治療 39;S9-S19, 2011	血液透析施行中の腎性貧血患者を対象としたC. E. R. A (Continuous Erythropoietin Receptor Activator) の用量飯能試験 -二重盲検並行群間比較試験-	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;S21-S30, 2011	血液透析施行中の腎性貧血患者を対象としたC. E. R. A (Continuous Erythropoietin Receptor Activator) 静脈内投与による貧血改善効果の検討 -第III相臨床試験-	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;S31-S42, 2011	血液透析患者におけるrHuEPO製剤からC. E. R. A (Continuous Erythropoietin Receptor Activator) への切り替え維持投与に関する検討	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;S43-S54, 2011	保存期慢性腎臓病患者を対象としたC. E. R. A (Continuous Erythropoietin Receptor Activator) 皮下投与および静脈内投与の用量反応性に関する検討 -第II相試験-	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;S55-S68, 2011	保存期慢性腎臓病患者を対象としたC. E. R. A (Continuous Erythropoietin Receptor Activator) 皮下投与および静脈内投与における貧血改善維持効果の検討	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;S69-S78, 2011	腹膜透析施行中の腎性貧血患者に対する持続性赤血球造血刺激因子製剤C. E. R. A (Continuous Erythropoietin Receptor Activator) の皮下投与または静脈内投与による貧血改善維持効果の検討	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;1159-1174, 2011	新規持続型赤血球造血刺激因子C. E. R. Aの保存期慢性腎臓病患者における薬物動態学的特性	別所正美	血液内科
薬理と治療 39;1175-1190, 2011	透析施行中の腎性貧血患者における新規持続型赤血球造血刺激因子C. E. R. Aの薬物動態に関する検討	別所正美	血液内科
臨床血液 53;303-309, 2012	単一施設におけるMGUS114例の多発性骨髄腫および類縁疾患への進展に関する後方視的解析	別所正美	血液内科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
肝臓 52;393-398, 2011	我が国における「急性肝不全」の概念, 診断基準の確立 (難治性の肝胆道疾患に関する調査研究班)	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
Hepatol Res 42;68-75, 2012	Novel scoring system as a useful model to predict the outcome of patients with acute liver failure: Application to indication criteria for liver transplantation.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
Haptol Res 41;805-813, 2011	Diagnostic criteria of acute liver failure: A report by the intractable Hepato-Biliary Diseases Study Group of Japan.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
Hum Mol Genet 20;3507-3516, 2011	Genome-wide association study identified ITPA/DDRGK1 variants reflecting thrombocytopenia in pegylated interferon and ribavirin therapy for chronic hepatitis C.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
J Gastroenterol 47;313-320, 2012	The efficacy and safety of terlipressin and albumin in patients with type 1 hepatorenal syndrome: a multicenter, open-label, explorative study.	持田 智	消化器内科 ・肝臓内科
Intern Med 51;9-15, 2012	A multicenter study to clarify the optimal HCV-RNA negative period during combined therapy with pegylated interferon plus ribavirin in patients with chronic hepatitis caused by HCV genotype 2.	名越 澄子	消化器内科 ・肝臓内科
J Gastroenterol 47;179-186, 2012	Usefulness of miriplatin as an anticancer agent for transcatheter arterial chemoembolization in patients with unresectable hepatocellular carcinoma.	今井 幸紀	消化器内科 ・肝臓内科
J Gastroenterol 46;1127-1135, 2011	Novel classification of acute liver failure through clustering using a self-organizing map: usefulness for prediction of the outcome	中山 伸朗	消化器内科 ・肝臓内科
Clin J Gastroenterol 4;318-322, 2011	A case of gastric varices with gastropericardiac shunt successfully treated by balloon-occluded retrograde transvenous obliteration via the pericardiophrenic vein using a microballoon catheter.	中澤 学	消化器内科 ・肝臓内科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes Metab Res Rev 27;844-848, 2011	Analysis of the HLA and non-HLA susceptibility loci in Japanese type 1 diabetes.	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
Endocr J 59;239-246, 2012	Hypoglycemic effects of colestimide on type 2 diabetic patients with obesity.	栗田 卓也	内分泌内科 ・糖尿病内科
血压 19;56-62, 2012	糖尿病合併高血圧患者に対する積極的降圧治療による降圧目標達成と代謝機能の変化に関する多施設共同前向き観察研究	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Diabetologia 54;1025-1031, 2011	日本人 2 型糖尿病患者での JDCS における正常あるいは軽度微量アルブミン尿患者からの蛋白尿の発症頻度は低い	片山 茂裕	内分泌内科 ・糖尿病内科
Clinica Chimica Acta 412;843-849, 2011	Free immunoglobulin light chain: its biology and implications in diseases	井上 郁夫	内分泌内科 ・糖尿病内科
Brain Behav 1;63-69, 2011	Pilot data on telmisartan short-term effects on glucose metabolism in the olfactory tract in Alzheimer's disease.	荒木 信夫	神経内科・ 脳卒中内科
日本頭痛学会誌 38;269-274, 2012	バルプロ酸による片頭痛治療ガイドライン (暫定版)	荒木 信夫	神経内科・ 脳卒中内科
Intern Med 50;2163-2168, 2011	Pramipexole reduces the prevalence of fatigue in patients with Parkinson's disease.	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科
自律神経 48 ; 251-257, 2011	起立性低血圧を伴うパーキンソン病では副腎髄質の交感神経と圧受容器求心路機能は保たれる。	山元 敏正	神経内科・ 脳卒中内科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを 100 件以上記入すること (当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
神経治療学 28:279-282, 2011	タクロリムスの併用により再発抑制と抗AQP-4抗体値の低下を認めたneuromyelitis opticaの1症例—1症例の20年間の治療経験から—	富 岳 亮	神経内科・ 脳卒中内科
Magn Reson Med Sci 10:229-337, 2011	Multiple-animal MR Imaging using a 3T Clinical Scanner and Multi-channel Coil for Volumetric Analysis in a Mouse Tumor Model.	新 津 守	放射線科
Acta Radiol 52:99-105, 2011	Muscle hardness measurement by using ultrasound elastography: A feasibility study	新 津 守	放射線科
Jpn J Radiol Technology 67:490-496, 2011	T2 and T1rho values of the knee joint carilage	新 津 守	放射線科
Magn Reson Med Sci 10:85-91, 2011	T2 Mapping of muscle activity using ultrafast imaging	新 津 守	放射線科
Jpn J Radiol 30:247-276, 2012	Cushing syndrome treated by radiofrequency ablation of adrenal gland adenoma.	田 中 淳 司	放射線科
Jpn J Radiol 29:330-334, 2011	Should the dose of contrast medium be determined solely on the basis of body weight regardless of the patient's sex?	田 中 淳 司	放射線科
Jpn J Radiol 29:429-36, 2011	Usefulness of diffusion-weighted imaging of breast tumors: quantitative and visual assessment.	井 上 快 児	放射線科
手術 65:1317-1319, 2011	下部消化管穿孔の創部に対する遷延一次縫合の効果	浅 野 博	消化器一般外科
J Neurosurg 114:1278-1287, 2011	Long-term surgical outcome and biological prognostic factors in patients with skull base meningiomas.	小 林 正 人	脳神経外科

計 10

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Brain Lang 119:206-213, 2011	TMS suppression of right pars triangularis, but not pars opercularis, improves naming in aphasia.	小林 正人	脳神経外科
Adv Perit Dial 27:60-64, 2011	Testing a single monthly dose of darbepoetin alpha to maintain hemoglobin levels in continuous ambulatory peritoneal dialysis patients.	鈴木 洋通	腎臓内科
Adv Perit Dial 27:134-139, 2011	Does cinacalcet HCl, an oral calcimimetic agent for the treatment of secondary hyperparathyroidism, improve arterial stiffness in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis?	鈴木 洋通	腎臓内科
Diabetologia 54:2192-2201, 2011	Altered gap junctional communication and renal haemodynamics in Zucker fatty rat model of type 2 diabetes.	竹中 恒夫	腎臓内科
Clin Exp Hypertens 33:210-215, 2011	Amlodipine and loop diuretics as the second anti-hypertensive medication for the treatment of hypertension with chronic kidney diseases.	竹中 恒夫	腎臓内科
J Hypertens 35:416-423, 2012	Validation of carotid blood pressure assessment by tonometry.	竹中 恒夫	腎臓内科
J Hypertens 30:429-432, 2012	Validation of carotid blood pressure assessment by tonometry.	竹中 恒夫	腎臓内科
埼玉医科大学雑誌 38:39-44, 2011	BOLD MRIを用いた腎機能評価法の確立	井上 勉	腎臓内科
J Am Soc Nephrol 22:1429-1434, 2011	Noninvasive evaluation of kidney hypoxia and fibrosis using magnetic resonance imaging.	井上 勉	腎臓内科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Adv Perit Dial 27;77-81, 2011	Removal of the peritoneal dialysis catheter because of gastrointestinal disease in patients on continuous ambulatory peritoneal dialysis: a single-center case series.	小島 恵理子	腎臓内科
Adv Perit Dial 27;71-76, 2011	Clinical presentation in patients more than 80 years of age at the start of peritoneal dialysis.	末吉 慶多	腎臓内科
薬局薬学 3;39-44, 2011	フィジカルアセスメントを伴った薬剤師の介入による降圧剤処方の見直し	山本 啓二	心臓内科
Pediatr Diabetes 13;33-44, 2012	Japanese Study Group of Insulin Therapy for Childhood and Adolescent Diabetes (JSGIT). HLA-class II and class I genotypes among Japanese children with Type 1A diabetes and their families.	雨宮 伸	小児科
日本先進糖尿病治療研究会雑誌 7;24-28, 2011	小児1型糖尿病患者における血中ケトン体自己測定の有用性の検討	雨宮 伸	小児科
糖尿病と妊娠 11;37-40, 2011	SGA児における耐糖能異常 (GH治療を含めて)	雨宮 伸	小児科
J Bone Miner Metab in press, 2011	Cross-sectional study of bone metabolism with nutrition in adult classical phenylketonuric patients diagnosed by neonatal screening.	大竹 明	小児科
J Hum Genet in press, 2011	HRAS mutants identified in Costello syndrome patients can induce cellular senescence: possible implications for the pathogenesis of Costello syndrome.	大竹 明	小児科
Pediatr Int in press, 2011	Neonatal lactic acidosis with methylmalonic aciduria by novel mutations in the SUCLG1 gene	大竹 明	小児科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No. 7

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本小児科学会雑誌 115;1067-1072, 2011	劇症肝不全として発症したミトコンドリアDNA枯渇症候群の新生児例.	大竹 明	小児科
Int Arch Allergy Immunol 156;305-312, 2011	Lack of transient receptor potential vanilloid-1 enhances Th2-biased immune response of the airways in mice receiving intranasal, but not intraperitoneal, sensitization.	徳山 研一	小児科
日本小児アレルギー学会誌 25;682-691, 2011	群馬県における気管支喘息児および保護者のQOLの実態—2001年から2008年にかけての変遷—	徳山 研一	小児科
Intern Med 50;1757-1760, 2011	Tocilizumab improved both clinical and laboratory manifestations except for interleukin-18 in a case of multiple-drug-resistant adult-onset Still's disease.	吉田 佳弘	リウマチ膠原病科
J Biol Chem 286;14963-14971, 2011	Marked Induction of c-Maf Protein during Th17 Cell Differentiation and Its Implication in Memory Th Cell Development.	佐藤 浩二郎	リウマチ膠原病科
Arthritis 9;32-43, 2011	肝炎ウイルスを含めた感染症とMTXの処方	中嶋 京一	リウマチ膠原病科
ONCOLOGY REPORTS 27;333-338, 2012	Clinical implications of 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography/computed tomography at delayed phase for diagnosis and prognosis of malignant pleural mesothelioma	金澤 實	呼吸器内科
日本呼吸ケア・リハ会誌 21;35-39, 2011	COPD患者の入院理由としての誤嚥性肺炎の関与	金澤 實	呼吸器内科
Ann Rheum Dis 71;817-824, 2011	Golimumab in combination with methotrexate in Japanese patients with active rheumatoid arthritis: results of the GO-FORTH study	金澤 實	呼吸器内科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pulmonary Medicine 10;1155, 2012	Imaging Diagnosis of Interstitial Pneumonia with Emphysema (Combined Pulmonary Fibrosis and Emphysema)	金澤 實	呼吸器内科
J Hosp Infect 77;257-262, 2011	Tuberculosis screening programme using the QuantiFERON-TB Gold test and chest computed tomography for healthcare workers accidentally exposed to patients with tuberculosis.	金澤 實	呼吸器内科
日呼吸誌 1;56-61, 2012	インフルエンザウイルスA/H1N12009肺炎の1剖検症例	金澤 實	呼吸器内科
PLoS ONE 6:e25059, 2011	Homozygosity mapping on homozygosity haplotype analysis to detect recessive disease-causing genes from a small number of unrelated, outbred patients.	萩原 弘一	呼吸器内科
J Thorac Oncol 6;1413-1417, 2011.	Low-Dose Gefitinib Treatment for Patients with Advanced Non-small Cell Lung Cancer Harboring Sensitive Epidermal Growth Factor Receptor Mutations.	萩原 弘一	呼吸器内科
Cancer 118;1599-1606, 2012	Enhancer of zeste homolog 2 is a novel prognostic biomarker in nonsmall cell lung cancer.	萩原 弘一	呼吸器内科
Eur J Hum Genet 20;230-235, 2012	volvement of surfactant protein D in emphysema revealed by genetic association study.	萩原 弘一	呼吸器内科
Am J Clin Oncol 2012	Can Serum be Used for Analyzing the EGFR Mutation Status in Patients with Advanced Non-small Cell Lung Cancer?	萩原 弘一	呼吸器内科
日本呼吸器学会誌 1;267-272, 2012	慢性腎不全に対して人工透析を行った肺胞微石症の1例	萩原 弘一	呼吸器内科
Thorax 66;1085-1090, 2011	Identification of FGF7 as a novel susceptibility locus for chronic obstructive pulmonary disease	萩原 弘一	呼吸器内科

計 10

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Respir Res 17;138, 2011.	IFN-gamma-inducible protein of 10 kDa upregulates the effector functions of eosinophils through beta2 integrin and CXCR3	永田 真	呼吸器内科
アレルギー 60;207-213, 2011	トリコフィトンの職業性曝露が増悪の原因と考えられた気管支喘息の1例	永田 真	呼吸器内科
J Immunol 186;5975-5982, 2011	Dopamine d1-like receptor antagonist attenuates th17-mediated immune response and ovalbumin antigen-induced neutrophilic airway inflammation.	永田 真	呼吸器内科
Proc Natl Acad Sci U S A 108;15990-15995, 2011	Neutrophil transmigration triggers repair of the lung epithelium via β -catenin signaling	鈴木 朋子	呼吸器内科
Am J Pathol 179;1733-1745, 2011	Matrix metalloproteinase 3 is a mediator of pulmonary fibrosis.	鈴木 朋子	呼吸器内科
PLoS One 6;e24474, 2011	Prediction of the Pathogens that are the Cause of Pneumonia by the Battlefield Hypothesis.	平間 崇	呼吸器内科
Fertil Steril 95;2568-2570, 2011	Damages at Japanese assisted reproductive technology clinics by the Great Eastern Japan Earthquake of 2011	石原 理	産婦人科
Nagoya J Med Sci 73;129-135, 2011	Fragment size analysis of free fetal DNA in maternal plasma using Y-STR loci and SRY gene amplification	石原 理	産婦人科
Fertility and Sterility 95;1966-1999, 2011	Frozen-thawed blastocyst transfer reduces ectopic pregnancy risk: an analysis of single embryo transfer cycles in japan	石原 理	産婦人科
Fertil Steril 95;2209-2222, 2011	International Committee for Monitoring Assisted Reproductive Technology (ICMART) world report: assisted reproductive technology 2003	石原 理	産婦人科
日本産科婦人科学会雑誌 63;1294-1301, 2011	本邦での生殖補助医療におけるゴナドトロピン製剤在宅自己注射の実態調査に関する検討小委員会	石原 理	産婦人科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J. Obstet. Gynaecol. Res 37;1493-1496, 2011	Gestational choriocarcinoma of fallopian tube diagnosed with a combination of p57KIP2 immunostaining and short tandem repeat analysis: Case report	板倉 敦夫	産婦人科
Fertility and Sterility 97;185-191, 2012	Androgen signaling in decidualizing human endometrial stromal cells enhances resistance to oxidative stress.	梶原 健	産婦人科
Placenta 32;592-597, 2011	Differential effects of urinary and recombinant chorionic gonadotropin on oxidative stress responses in decidualizing human endometrial stromal cells.	梶原 健	産婦人科
Fertility and Sterility 95;1302-1307, 2011	Human chorionic gonadotropin confers resistance to oxidative stress-induced apoptosis in decidualizing human endometrial stromal cells.	梶原 健	産婦人科
J Obstet Gynaecol Res 38;122-129, 2012	Birthweight placental weight ratio of appropriate-for-dates and light-for-dates infants in preterm delivery.	田丸 俊輔	産婦人科
J Obstet Gynaecol Res 37;792-799, 2011	Voronoi diagram description of the maternal surface of the placenta: preliminary report.	田丸 俊輔	産婦人科
Annals of general Psychiatry 10;21-22, 2011	Comparison of prevalence of metabolic syndrome in hospital and community-based Japanese patients with schizophrenia.	山下 博栄	神経精神科 ・心療内科
Hip Joint 37;324-327, 2011	外傷性大腿骨頭壊死症に対する大腿骨頭回転骨切り術の成績	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 37;343-346, 2011	骨頭圧潰を呈した臼蓋形成不全股の検討	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 37;710-715, 2011	Acetabular retroversion のCT評価	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科
Hip Joint 37;716-719, 2011	50歳以上の寛骨臼回転骨切り術の成績	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科

計 11

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
The Knee 18;83-87, 2011	Fixation strength of the interference screw in the femoral tunnel: The effect of screw divergence on the coronal plane	織田 弘美	整形外科 ・脊椎外科
別冊整形外科 60;53-58, 2011	骨粗鬆症治療薬による疼痛改善とQOLおよび逆流性食道炎に対する効果	宮島 剛	整形外科 ・脊椎外科
別冊整形外科 60;194-200, 2011	予防と治療のガイドラインに基づく最新の骨粗鬆症治療戦略	田中 伸哉	整形外科 ・脊椎外科
Ostomy Wound Manage 57;40-47, 2011	In vivo analysis of skin microcirculation and the role of nitric oxide during vibration.	市岡 滋	形成外科 ・美容外科
Eur Arch Otorhinolaryngol 268;941-944, 2011	Manometric assessment of pharyngeal swallowing pressure after mandibular reconstruction.	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
頭頸部癌 37;83-87, 2011	準緊急的な拡大切除で局所制御をしえた進行甲状腺未分化癌の2症例	中塚 貴志	形成外科 ・美容外科
日本形成外科学会誌 31;442-448, 2011	高気圧酸素療法による下肢救済一血行再建適応外症例に対する補助療法としての有用性一	佐藤 智也	形成外科 ・美容外科
形成外科 54;1389-1396, 2011	当院における遊離組織移植による頭頸部再建手術の検討	廣川 詠子	形成外科 ・美容外科
International Journal of Colorectal Disease 26;653-659, 2011	New application of the gluteal fold flap for the treatment of anorectal stricture	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科
Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg ;inpress, 2011	Rhinophyma-like hypertrophy of the nose caused by chronic facial pyoderma in a patient with Crohn's disease.	土屋 沙緒	形成外科 ・美容外科

計 9

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Auris Nasus Larynx 39;38-47, 2012	Efficacy of combined treatment with S-carboxymethylcysteine (carbocysteine) and clarithromycin in chronic rhino sinusitis patients without nasal polyp or with small nasal polyp	加瀬 康弘	耳鼻咽喉科
Acta Otolaryngol 131;937-944, 2011	Cochlin-tomoprotein (CTP) detection test identifies traumatic perilymphatic fistula due to penetrating middle ear injury	池園 哲郎	耳鼻咽喉科
ENTONI 136;8-13, 2012	【反復するめまいへの対応】外リンパ瘻	新藤 晋	耳鼻咽喉科
Invest Ophthalmol Vis Sci 52;8780-8784, 2011	Association of Elastin Gene Polymorphism to Age-related Macular Degeneration and Polypoidal Choroidal Vasculopathy.	森 圭介	眼科
Ophthalmology 118;1082-1088, 2011	Associations of cigarette smoking but not of serum fatty acids with age-related macular degeneration in a Japanese population.	森 圭介	眼科
Nat Genet 43;1001-1004, 2011	Genome-wide association study identifies two susceptibility loci for exudative age-related macular degeneration in the Japanese population.	森 圭介	眼科
Diabetic medicine : a journal of the British Diabetic Association 28;865-871, 2011	Do type 2 diabetes patients without diabetic retinopathy or subjects with impaired fasting glucose have impaired colour vision? The Okubo Color Study Report.	庄司 拓平	眼科
J Dermatol 38, 310-320, 2011	Prevalence of dermatological disorders in Japan: a nationwide, cross-sectional, seasonal, multicenter, hospital-based study	土田 哲也	皮膚科

計 8

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No. 13

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成23年度 総括・分担報告書 ;51-54, 2012	Neurofibromatosis type1 (NF1) 診療ネットワークの構築	倉持 朗	皮膚科
厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 神経皮膚症候群に関する調査研究 平成23年度 総括・分担研究報告書 ;43-50, 2012	神経線維腫症1型の結節状蔓状神経線維腫に対する対応	倉持 朗	皮膚科
皮膚科の臨床/皮膚臨床 53;1459-1462, 2011	タキサン系抗癌剤で治療したstewart-Treves症候群の1例	倉持 朗	皮膚科
日本皮膚病理組織学会誌 27;33-36, 2012	下腹部に生じたkeratoacanthomatous SCC の1例	倉持 朗	皮膚科
脳と発達 43;300-303, 2011	限局性皮質形成異常を合併した神経皮膚黒色症の1例	倉持 朗	皮膚科
日本レックリングハウゼン病学会雑誌 2;27-39, 2011	神経線維腫症1型の瀰漫性神経線維腫に対する対応	倉持 朗	皮膚科
Journal of Dermatology 38;497-499, 2011	Cysteinyl leukotriene receptor 2 gene polymorphism - 1220 A/C is not associated with atopic dermatitis or psoriasis vulgaris in Japanese patients.	中村 晃一郎	皮膚科
皮膚病診療 34;293-296, 2012	頬部閉鎖性腺癌	中村 晃一郎	皮膚科
Hormones and Cancer 2;286-297, 2011	FOXP1, an estrogen-inducible transcription factor, modulates cell proliferation in breast cancer cells, and 5-year recurrence-free survival of patients with amoxifen-treated breast cancer	大崎 昭彦	乳腺腫瘍科

計 9

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast Cancer 18;141-144, 2011	A false positive for metastatic lymph nodes in the axillary region of a breast cancer patient following mastectomy.	松浦一生	乳腺腫瘍科
Endocrinology 153;961-972, 2012	Liganded thyroid hormone receptor induces nucleosome removal and histone modifications to activate transcription during larval intestinal cell death and adult stem cell development.	松浦一生	乳腺腫瘍科
J Biol Chem 287;10039-10050, 2012	Thyroid hormone activates protein arginine methyltransferase 1 expression by directly inducing c-Myc transcription during Xenopus intestinal stem cell development.	松浦一生	乳腺腫瘍科
Biochemical and Biophysical Research Communications 407;213-218, 2011	A novel mutation of ALK2, L196P, found in the most benign case of fibrodysplasia ossificans progressiva activates BMP-specific intracellular signaling equivalent to a typical mutation, R206H	依田哲也	歯科・口腔外科
Acta Histochem. Cytochem 44;239-245, 2011	Immunohistochemical analysis of oral dysplasia: Diagnostic assessment by fascin and podoplanin expression	依田哲也	歯科・口腔外科
Endocrinology 152;1652-1660, 2011	The role of glucocorticoids in pregnancy, parturition, lactation, and nurturing in melanocortin receptor 2-deficient mice.	依田哲也	歯科・口腔外科
日本口腔診断学会雑誌 24;159-164, 2011	オステオームテクニックによるインプラント埋入後3年間の骨量変化に関する3次元CBCT画像解析評価	依田哲也	歯科・口腔外科
日本口腔科学会雑誌 60;240-245, 2011	口腔乾燥症患者に対する口腔保湿剤アクアムーカスの使用経験	依田哲也	歯科・口腔外科

計 8

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを

100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本顎関節学会雑誌 23;149-154, 2011	側面頭頸部線規格撮影を用いた咀嚼筋・腱・腱膜過形成症患者の顎顔面形態分析	依田 哲也	歯科・口腔外科
小児歯科学雑誌 49;172-179, 2011	低身長と診断された小児における顎顔面頭蓋部および口腔の成長発育に関する研究	依田 哲也	歯科・口腔外科
Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology In press, 2011	Proteomic analysis of a masticatory muscle tendon-aponeurosis hyperplasia: a preliminary study using 2D-DIGE system.	佐藤 毅	歯科・口腔外科
J Gastroenterol 46;1267-1272, 2011	Effect of lansoprazole vs. roxatidine on prevention of bleeding and ulcer healing after endoscopic submucosal dissection for superficial gastric neoplasia	今枝 博之	総合診療内科
Endoscopy 43;E162-163, 2011	Evaluation of small-intestinal abnormalities in adult patients with Henoch-Schönlein purpura using video capsule	今枝 博之	総合診療内科
Clin Res Hepatol Gastroenterol 36;66-71, 2012	Evaluations of capsule endoscopy software in reducing the reading time and the rate of false negatives by inexperienced endoscopists	今枝 博之	総合診療内科
Gastric Cancer 15;70-75, 2012	Multicenter study of the long-term outcomes of endoscopic submucosal dissection for early gastric cancer in patients 80 years of age or older	今枝 博之	総合診療内科
Journal of Immunology 186;5975-5982, 2011	Dopamine D1-like receptor antagonist attenuates Th17-mediated immune response and ovalbumin antigen-induced neutrophilic airway inflammation	岡田 浩一	総合診療内科

計 8

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

2 論文発表等の実績

No. 16

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res 34;599, 2011	The (pro) renin receptor is cleaved by ADAM19 in the Golgi leading to its secretion into extracellular space	飯田 慎一郎	総合診療内科
Hypertens Res 34;701-706, 2011	Non-activated APJ suppresses the angiotensin II type 1 receptor, whereas apelin-activated APJ acts conversely	飯田 慎一郎	総合診療内科
アレルギー 61;194-203, 2012	重症気管支喘息患者への教育・指導が気道炎症にもたらす効果の検討	小林 威仁	総合診療内科
Progress of Digestive Endoscopy 79;66-67, 2011	有茎性の粘膜下腫瘍様の内視鏡像を呈した胃 hamartomatous inverted polypの2例	茅野 秀一	病理学
J Neurosci Res 89;576-584, 2011	Factors responsible for neurofibrillary tangles and neuronal cell losses in tauopathy	佐々木 惇	病理学
Neuropathology 32;385-389, 2012	Phosphorylated α -synuclein immunoreactivity in the posterior pituitary lobe	本間 琢	病理学

計 6
合計 145

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。）。
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 片山 茂裕		
管理担当者氏名	医務部長	奥富 篁幸	総務部長 茂木 明
	薬剤部長	北澤 貴樹	医療安全対策室長 金澤 實
	利用者相談室長	斉藤 喜博	

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	診療情報管理室 医務部庶務課	入院・外来診療録とも電子カルテで管理している。 X-Pフィルムは、フィルム保管庫及びCR化にて一括管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課
	高度の医療の提供の実績	医務部
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医務部
	高度の医療の研修の実績	医務部
	閲覧実績	医務部
	紹介患者に対する医療提供の実績	医務部
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医務部 薬剤部

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策室
	規則第一条の十一	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策室
	規則第一項各号及び第九	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策室
	規則第二十三	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策室
	規則第一項第一号に掲げる	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策室
	規則第一項第一号に掲げる	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室
	規則第一項第一号に掲げる	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策室
	規則第一項第一号に掲げる	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策室 利用者相談室

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
	第十一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	院内感染対策室
	第一項各号	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	院内感染対策室
	及び第九条	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
	第二十三第一項	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	第一号に掲げる	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	体制の確保の状況	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

			保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	第規一則号第一に掲げる十一体の第一項各号状及び第九条の二十三第一項	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEサービス部	/
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサービス部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサービス部	

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	医務部長 奥富 篁幸
閲覧担当者氏名	医務部長 奥富 篁幸 総務部長 茂木 明 薬剤部長 北澤 貴樹
閲覧の求めに応じる場所	医務部、総務部、薬剤部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2	件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	52.2 %	算定期間	平成23年 4月 1日～平成24年 3月31日
算出根拠	A：紹介患者の数	15,441 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	11,140 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	1,984 人	
	D：初診の患者の数	43,596 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

①医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>指針の主な内容：</p> <p>1. 医療安全管理指針：平成14年11月19日制定 大学病院の医療安全対策に関する基本姿勢ならびに方針を明確にし、職員に周知を図ることにより安全文化の構築を期待するものである。本指針は患者からの相談への対応に関する指針および、事故等発生時の公表指針も含まれ、また患者・家族の開示請求にも応じる。</p> <p>2. 診療基本マニュアル（平成10年初版）（完全版：平成23年4月1日刷、ポケット版：平成23年9月1日刷） 大学病院における診療の基本姿勢を中心に掲載したマニュアルで、A4サイズの完全版のほか、マニュアルの要点をまとめたポケット版がある。A4完全版は、院内各部署に常備されている「埼玉医科大学病院マニュアル集」に収録し、ポケット版は全教職員に貸与し常時携行を要請している。内容は(1)診療の基本、(2)正しい保険診療、(3)医療安全の基本、(4)医療安全対策総論、(5)医療安全対策各論、(6)問題発生時等への対応の六章から構成されている。掲載内容は診療基本マニュアル編集会議において検討し、必要事項は随時追補している。</p> <p>3. 埼玉医科大学病院マニュアル集 全職員が周知しておくべき診療サービス等に係る基準、手順等を収録している。大学病院マニュアル集は、定期的に加除整理をおこなっており、直近の追録加除整理は平成23年9月1日である。マニュアル集の収録内容は、医療安全管理指針、診療基本マニュアル完全版、医薬品業務手順書第4版、消毒薬使用指針、褥瘡対策マニュアル、感染性廃棄物取扱手順書、医療ガス保守点検指針、指定施設等不在者投票処理要領、輸血マニュアルである。</p> <p>4. その他のマニュアル 各マニュアルは、所掌する院内委員会等において診療基本マニュアルとの内容の整合性を検証した上で編集され、関係部署へ常備されている。主なマニュアルは以下の通りである。 電子カルテ運用マニュアル（情報システム部）、院内感染防止対策マニュアル（院内感染防止対策委員会）、放射線科診療安全マニュアル（中央放射線部）、看護基準・手順（看護部）、診療記録等の開示実施マニュアル（医療情報提供委員会）、災害対策マニュアル（防災対策委員会）、血液浄化マニュアル（血液浄化部）、医療機器安全管理指針（中央機材室・MEサービス部）、学校法人埼玉医科大学規程集</p>	
②医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12回
<p>活動の主な内容：</p> <p>医療安全対策委員会：医療安全対策に関する調査・教育等を総括する委員会であり、医療法施行規則に定める「医療に係る安全管理のための委員会」として位置づけられている。委員長は病院長をとし、同委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会（ヒヤリ・ハット事例等を分析・検討する委員会）において検討した事項の報告を受け、安全確保を目的として立案された方策を決定する役割を担っている。決定事項は、科長会議において報告、審議される。</p>	

規則第 1 条の 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 第 3 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

③医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況			年 31回
研修の主な内容：表の通り			
平成 2 3 年度	開催日	テーマ名	参加者数
講演会	5月31日	引き算の改善と医療安全	273
講演会	6月21日	東日本大震災派遣医療チーム報告・節電対策説明会	296
講演会	7月8日	自殺予防の基礎知識	188
学習会	7月25日	RSTミニレクチャー	31
学習会	8月26日	病院の安全と5S活動	56
学習会	8月29日	RSTミニレクチャー	77
学習会	9月26日	RSTミニレクチャー	21
学習会	9月30日	コミュニケーションを考える	121
講演会	10月11日	東日本大震災におけるDMAT活動と課題	364
学習会	10月28日	みんなで考えよう医療事故	66
学習会	10月31日	RSTミニレクチャー	30
研修会	11月14日	個人情報保護研修会	293
学習会	11月22日	医療事故の事例に学ぶ	149
研修会	11月22日	医薬品・医療機器安全管理研修会	248
学習会	11月25日	医療事故の事例に学ぶ	66
研修会	11月30日	医薬品・医療機器安全管理研修会	302
研修会	12月6日	院内暴力対策研修会	234
研修会	12月8日	医薬品・医療機器安全管理研修会	307
講演会	12月16日	危機管理について	224
学習会	12月26日	RSTミニレクチャー	26
学習会	1月23日	医療事故の事例に学ぶ	112
講演会	1月24日	がん悪液質	126
研修会	1月25日	接遇研修	245
学習会	1月30日	診療における危険予知とKYT	19
学習会	1月30日	RSTミニレクチャー	38
学習会	2月24日	安全な業務を遂行するためには	25
学習会	2月27日	RSTミニレクチャー	18
講演会	2月29日	災害対策講演会	165
学習会	3月1日	医療事故の事例に学ぶ	16
学習会	3月14日	医療事故の事例に学ぶ	5
学習会	3月26日	RSTミニレクチャー	23
④医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況			
<p>・医療機関内における事故報告等の整備 (㊟・無)</p> <p>その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ヒヤリ・ハット事例は、医療安全管理者ならびに医療安全対策委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会である医療安全対策小委員会の委員が毎日輪番制で確認し、重要事例を同小委員会（月1回開催）で検討する。検討された内容は、医療安全対策委員会で報告、事故防止の改善方策等の決定を受け、科長会議、看護師長会議、医療安全対策実務者会議で伝達され、各部署へフィードバックされる。またヒヤリ・ハット事例は、厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関へ定点医療機関として報告している。</p> <p>アクシデント事例は、医療安全対策室室長ならびに病院長へ報告され、医療安全対策委員会の所掌する下部組織としての専門小委員会である医療事故対策小委員会、若しくは医療安全対策調査小委員会により事実関係を調査し、今後の予防策について当該部署より文書による回答を求めるとともに、その内容を病院長ならびに厚生労働大臣の登録を受けた第三者機関等へ報告する。</p> <p>ヒヤリ・ハット事例およびアクシデント事例ともに、委員会等における検証の後、各部署の医療安全対策実務者に対して情報提供し、合わせて再発防止策等の周知伝達を図っている。</p>			

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

⑤専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	⑤(1名)・無
⑥専任の院内感染対策を行う者の配置状況	⑤(1名)・無
⑦医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	⑤・無
・所属職員： 専任（ 2 ）名 兼任（ 9 ）名 ・活動の主な内容： 大学病院医療安全対策室規則に定める以下の業務を実施する。 1. 医療安全対策委員会の資料及び議事録の作成ならびに保存、庶務に関する事項 2. 事故発生時の対応状況についての確認 3. 医療安全に係る連絡調整ならびに医療安全推進活動 4. 医療安全対策の企画，立案，実施，評価，記録 5. 医療安全に係る事項についての大学病院各部及び各委員会との調整 6. 医療安全に関連する委員会の議事録，資料の作成ならびに保存 7. 事故等が発生した場合、診療録や看護記録等への記載状況の確認 8. 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認	
⑧当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	⑤・無

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

①院内感染対策のための指針の策定状況	① 有 ・ 無																																														
<p>(院内感染対策指針の主な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的な考え方 ・ 組織および体制に関する基本的事項 ・ 従事者に対する研修の関する基本方針 ・ 感染症発生時の報告 ・ 感染症発生時の対応と連絡、報告体制 ・ 患者等に関する当該指針の閲覧 																																															
②院内感染対策のための委員会の開催状況	① 有 ・ 無																																														
<ul style="list-style-type: none"> ・ 定例会：毎月1回開催 ・ 委員会内容 <ol style="list-style-type: none"> ① 分離菌報告、特定分離菌（薬剤耐性菌:VRE・MDRP含む）の検出状況 ② 届出抗菌薬の使用状況および使用届けの提出状況 ③ 針刺し切創、粘膜曝露報告 ④ 手指衛生剤の払い出し量、手指衛生実施回数報告 ⑤ VREスクリーニング実施状況 ⑥ 院内感染対策関連の活動報告 ⑦ ICTラウンド報告 ⑧ 結核小委員会、医療廃棄物委員会報告 																																															
③従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	① 有 ・ 無																																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>研修・講演会名</th> <th>テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="10">2011年</td> <td>4月2日</td> <td></td> <td>感染症と感染対策</td> </tr> <tr> <td>4月26日</td> <td>専門領域セミナー</td> <td>こんなときどうする？</td> </tr> <tr> <td>5月17, 24日</td> <td rowspan="3">専門領域セミナー</td> <td rowspan="3">「感染対策の基本・実践に活かせる感染対策」 「個人防護具を使いこなそう」</td> </tr> <tr> <td>6月14, 21日</td> </tr> <tr> <td>7月5, 12, 19, 26日</td> </tr> <tr> <td>6月8日</td> <td>感染管理研修会</td> <td>感染対策の実践</td> </tr> <tr> <td>6月27日</td> <td>感染管理研修会</td> <td>カンボジアの小児病院におけるHIV/AIDS診療と訪問看護</td> </tr> <tr> <td>11月1, 8, 16日</td> <td rowspan="2">専門領域セミナー</td> <td rowspan="2">「器材の処理はこれで完璧！」 「慌てないための職業感染対策」</td> </tr> <tr> <td>12月6, 13, 20, 27日</td> </tr> <tr> <td>12月16日</td> <td>感染管理研修会</td> <td>当院におけるMRSAの検出状況</td> </tr> <tr> <td rowspan="6">2012年</td> <td>1月12, 13, 17, 18日</td> <td rowspan="2">感染管理研修会</td> <td rowspan="2">当院における薬剤耐性菌の現状と今後の更なる対策</td> </tr> <tr> <td>2月7日</td> </tr> <tr> <td>1月14日</td> <td>NST研修会</td> <td>がん悪液質－栄養評価・栄養管理</td> </tr> <tr> <td>3月1日</td> <td>感染管理研修会</td> <td>抗菌薬の適正使用に関わる薬剤師の役割</td> </tr> <tr> <td>3月5日</td> <td>感染管理研修会</td> <td>感染の視点からみた看護</td> </tr> <tr> <td>3月22日</td> <td>感染管理研修会</td> <td>みんなで取り組む感染対策と医療安全</td> </tr> </tbody> </table>			開催日	研修・講演会名	テーマ	2011年	4月2日		感染症と感染対策	4月26日	専門領域セミナー	こんなときどうする？	5月17, 24日	専門領域セミナー	「感染対策の基本・実践に活かせる感染対策」 「個人防護具を使いこなそう」	6月14, 21日	7月5, 12, 19, 26日	6月8日	感染管理研修会	感染対策の実践	6月27日	感染管理研修会	カンボジアの小児病院におけるHIV/AIDS診療と訪問看護	11月1, 8, 16日	専門領域セミナー	「器材の処理はこれで完璧！」 「慌てないための職業感染対策」	12月6, 13, 20, 27日	12月16日	感染管理研修会	当院におけるMRSAの検出状況	2012年	1月12, 13, 17, 18日	感染管理研修会	当院における薬剤耐性菌の現状と今後の更なる対策	2月7日	1月14日	NST研修会	がん悪液質－栄養評価・栄養管理	3月1日	感染管理研修会	抗菌薬の適正使用に関わる薬剤師の役割	3月5日	感染管理研修会	感染の視点からみた看護	3月22日	感染管理研修会	みんなで取り組む感染対策と医療安全
	開催日	研修・講演会名	テーマ																																												
2011年	4月2日		感染症と感染対策																																												
	4月26日	専門領域セミナー	こんなときどうする？																																												
	5月17, 24日	専門領域セミナー	「感染対策の基本・実践に活かせる感染対策」 「個人防護具を使いこなそう」																																												
	6月14, 21日																																														
	7月5, 12, 19, 26日																																														
	6月8日	感染管理研修会	感染対策の実践																																												
	6月27日	感染管理研修会	カンボジアの小児病院におけるHIV/AIDS診療と訪問看護																																												
	11月1, 8, 16日	専門領域セミナー	「器材の処理はこれで完璧！」 「慌てないための職業感染対策」																																												
	12月6, 13, 20, 27日																																														
	12月16日	感染管理研修会	当院におけるMRSAの検出状況																																												
2012年	1月12, 13, 17, 18日	感染管理研修会	当院における薬剤耐性菌の現状と今後の更なる対策																																												
	2月7日																																														
	1月14日	NST研修会	がん悪液質－栄養評価・栄養管理																																												
	3月1日	感染管理研修会	抗菌薬の適正使用に関わる薬剤師の役割																																												
	3月5日	感染管理研修会	感染の視点からみた看護																																												
	3月22日	感染管理研修会	みんなで取り組む感染対策と医療安全																																												

④感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

・病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)

- ① 中央検査部 細菌検査担当者より、院内感染対策室に特定分離菌検出患者の情報が提供される。その後、院内感染対策室員は患者情報を収集し、当該患者の病棟に向いて病棟管理者や感染制御リンクナースとともに感染対策について検討し実施する。必要時、速やかに院長（院内感染防止対策委員会委員長）に報告する

・その他の改善のための方策の主な内容

- ① ICTラウンドを通して、環境整備やケア場面などにおける標準予防策の実施状況を観察評価している。改善が必要な点については具体的な改善の方策をアドバイスし、ラウンドレポートに記載して当該部署に返信している。当該部署においては改善に向けての取り組みを検討し、その内容を提出している。改善状況の進捗については次回のICTラウンドで確認している
- ② 感染対策に関する最新の情報や市中の感染症流行状況等、全職員に周知が必要と思われる情報については院内向けの広報誌（Infection Control 通信）に掲載し発行している。毎月のMDRP、VREの検出状況や針刺し・切創の発生状況についても掲載している

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	① 有 ・ 無
②従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 5 回
・ 研修の主な内容： 医薬品安全使用のための看護部研修会（平成23年4月1日） 医薬品安全使用のための薬剤部研修会（平成23年9月1日） 医療安全全体会で医薬品安全使用のための病院全体研修会（平成23年11月22日、30日、12月8日）	
③医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (① 有 ・ 無) 第 4 版改訂 (平成23年3月11日承認) ・ 業務の主な内容 : 前年度3月に業務手順書の改訂を行い23年度講習会にて周知を行った 各病棟で月 2 回業務手順書に基づく業務の実施状況の確認を行った 麻薬に関する取り扱いについて講習会で周知徹底を図った 期限チェックの強化をはかった	
④医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (① 有 ・ 無) MRによる直接訪問、製薬メーカーからのFAX、メール、厚生労働省、PMDA、 各種ホームページなどから情報の収集を行った ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医薬品情報管理室にて情報を収集し緊急性の高い情報に関しては当日又は翌日に情報を発信した 毎月医薬品情報誌を作成し配布を行い、配布確認記録をとった	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

①医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○有 ・ 無
②従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 3回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ① 春季新入職医師・看護師対象、診療基本マニュアル機器講習会（人工呼吸器、除細動器） ② 秋季医療機器安全講習会 （人工呼吸器、輸液ポンプ・シリンジポンプ、心電図モニタ、除細動器等） ③ 医療機器安全使用講習会 	
<p>④ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 計画の策定 （○有 ・ 無） ・ 保守点検の主な内容： 人工呼吸器、除細動器、血液浄化装置、補助循環装置、閉鎖機器保育器、ライナック、輸液ポンプ、シリンジポンプ、ネブライザ、手術室医療機器各種点検 等 	
<p>④医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （○有 ・ 無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： 中央機材室ニュース、学内LAN（イントラネット）ホームページに配信 	